

# 1年1組 算数科学習指導案

日 時：令和5年2月〇日（〇）第5校時

場 所：〇小学校 1年1組教室

授業者：〇〇 〇〇

1 単元名 ずをつかっかんがえよう 全6時間

## 2 指導の立場

### (1) 単元について

本単元で扱う『ずをつかっかんがえよう』は、学習指導要領には以下のように位置付けられている。

#### A (2) 加法, 減法

- ア (ア) 加法及び減法の意味について理解し、それらが用いられる場合について知ること。  
(イ) 加法及び減法が用いられる場面を式に表したり、式を読み取ったりすること。
- イ (ア) 数量の関係に着目し、計算の意味や計算の仕方を考えたり、日常生活に生かしたりすること。

これまでの学習で、加法は合併（合わせて）と増加（ふえると）の場面で用いられること、減法は求残（のこりは）と求差（ちがいは）と求補（他方を求める）の場面で用いられることを学習してきた。本単元では、図を用いて数量の関係をとらえる活動を通して「順序数や異種の量、求大や求小の場面でも加法、減法が適用できること」を理解し、加法や減法が適用できる場面が広がることを意識させていくように構成されている。これまで学習してきた加法、減法の意味をさらに広げて理解を深めていくことと、場面を図で表現することで数量の関係を正しくとらえる力を育成していきたい。第2学年以降、テープ図や数直線図など、さらに抽象化した図を活用して数量の関係をとらえていくようになる。図をもとに思考する第一歩として、図に表すことのよさや、図を用いて説明することのよさを味わわせたい。

### (2) 児童の実態から

児童は、「問題を把握し、課題化して、追究し、まとめる。」という算数の学び方が定着しつつある。積極的に挙手発言ができる児童や、学習に粘り強く取り組むことができる児童も多いので、個人追究では見通しをもって解決に向かえるように問題把握や課題化を丁寧に行いたい。どの子にも「できた」と実感させるために、単位時間の最後の評価問題の見届けを確実に行いたい。

本単元のプレテストでは、増加の問題の正答率が92%、求差の問題の正答率が96%となり、既習の加法・減法の意味は理解できていると言える。しかし、「5人にノートを1冊ずつくばると、何冊いりますか。」という問題では、正答率が72%となり、文章問題の場面を把握する力に弱さを感じる。本単元では、さまざまな場面を、毎時間異なる図の形式で表さなければいけない。「分かっていること」「聞いていること」の数だけに着目するのではなく、場面のイメージを膨らませ、場面把握を丁寧に行うことを大切に、図式化できるようにしていきたい。

### (3) 指導の方向

#### 【研究内容Ⅰ ②考えをもち、深める展開の工夫】にかかわって

- ・本単元では、場面を図で表すこと、図をもとに立式することを大切にしたい。そのために、ペア交流では、図を指し示しながら話すことを意識させる。特に、 $4 + 3$ の4はどの部分で、3はどの部分なのかを明確に指し示すことで、言葉で表現しきれない児童も、図をもとに式を考えていることを表現させる。
- ・全体交流では、児童の考えが出た後に、かき足りていない誤った図を示す。正しい図と誤った図を並べて提示することで、違いに気づきやすくする。正しい図と誤った図を比較する活動を通して、「パンより3個多い」という部分を図に表す必要性に気付かせたい。

3 本時の展開 (4/6)

本時のねらい	求大の場面を図で表す活動を通して、数量の関係を捉えて加法になることに気付 き、立式して答えを求めることができる。	
評価規準	問題文にない数と「〇こおおい」部分を図で表し、図をもとに立式している。 【思考力・判断力・表現力】	
	<p style="text-align: center;">学習過程</p> <p><b>導入</b></p> <p><b>1 問題を把握する。</b></p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>おにぎりを4こかいます。パンはおにぎりより3こお くかおうとおもいます。 パンはなんこかえばよいでしょうか。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・分かっていることは、「4こ」と「3こおおい」です。</li> <li>・聞いていることは、「パンは何個買えばよいでしょうか」です。</li> </ul> <p><b>2 課題を設定する。</b></p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>「〇こおおい」のおはなしにぴったりのずをかいて、しき かんがえよう。</p> </div> <p><b>3 個人追究をする。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・図をかいて、立式する。</li> </ul> <p><b>4 ペア交流をする。</b></p> <p><b>5 全体交流をする。</b></p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p style="text-align: center;">— 4こ —</p> <p>おにぎり ○ ○ ○ ○</p> <p>パン ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○</p> <p style="text-align: right;">( 3こおおい )</p> <p>・パンは4個です。パンはおにぎりより3個多いです。4個 と3個なので、式は<math>4 + 3 = 7</math>。だから答えは7個です。</p> </div> <p>★どこが違っていませんか。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p style="text-align: center;">— 4こ —</p> <p>おにぎり ○ ○ ○ ○</p> <p>パン ○ ○ ○</p> <p style="text-align: right;">( 3こ )</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・パンが3個しかないから間違っています。</li> <li>・パンがおにぎりより少ないから違います。</li> <li>・おにぎりより多いから、おにぎりの分の4個○をかくとよい です。</li> </ul> <p><b>6 本時の学習をまとめる。</b></p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>「〇こおおい」のときは、たしざんをつかう。</p> </div> <p><b>7 評価問題を行う。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書の鉛筆問題に取り組む。</li> </ul>	<p style="text-align: center;">指導・援助</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・分かっていること（直線）、聞いていること（波線）に線 を引き、問題を捉えさせる。</li> <li>・「3個」ではなく、「3個多い」 という場面であることを押 さえ、板書に明記する。</li> <li>・図に示すとよいものとして、 「おにぎり」「4こ」「パン」 「3こおおい」の4つの言 葉を板書に位置付ける。</li> <li>・図を途中まで示し、個人追究 の見通しをもたせる。</li> <li>・個人追究でつまづく児童に は、ラビちゃんの言葉「まず おにぎりとおなじかずだけ パンの〇をかいて…」を示 す。</li> <li>・ペア交流では、話している通 りに図を指し示すことを意 識させる。</li> <li>・書画カメラでノートを写し、 ペア交流と同様に画面を指 し示しながら説明できるよ うにする。</li> <li>・誤った図を示すことで、「4 個」と「3個」だけ表すので はなく、「より多い」ことを 図に表すことに気付かせ る。</li> <li>・「〇こおおい」に気を付けて、 パンの部分を書くことの 大切さを押さえ、みんな でまとめを考える。</li> <li>・鉛筆問題は、問題把握を一 斉に行い、自力で図をか いて立式を行う。つま ずいてくる児童には、 途中までかかれた 図を与え、解決させ る。</li> <li>・鉛筆問題が終わった 児童は、タブレット で補充問題に取 り組ませる。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>問題文にない数と「〇こお おい」部分を図で表し、図 をもとに立式している。 (発表, ノート)</p> </div>
展開		
終末		